

【授業科目】 看護倫理 Nursing Ethics

担 当 教 員		開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	オフィス アワー
二村 良子、三好 陽子		1 年次 前 期	必 修	2	30	講 義	巻末 掲載
授業概要 (内容と進め 方) 及び 課題に対する フィードバック 方法	<p>1. 医療・看護倫理の歴史的背景を学び、医療・看護倫理の必要性・重要性について理解を深める。</p> <p>2. 複雑かつ多様な看護実践上の倫理的問題・課題の明確化、調整・解決への対処能力を培うことを目的に、看護倫理を探究する上で基盤となる諸理論や諸概念、様々な倫理的意思決定の方法論、活用方法等について学修する。</p> <p>3. 事例分析を通して、看護の各専門分野で起こる可能性が高い倫理的課題への対応を探究する。</p> <p>授業は実務家教員が進める（二村、三好、） 課題に対するフィードバック方法／授業の中でディスカッションの時間を設ける。課題レポートや小論文はコメントして返却する。</p>						
授業の 位置づけ	本大学院のディプロマ・ポリシー①、③、④の達成に寄与している。						
到達目標 (履修者が到達すべき 目標)	<p>1) 医療・看護倫理の歴史の変遷の理解を踏まえ、医療・看護倫理の必要性・重要性について考えを述べることができる。</p> <p>2) 看護倫理の基盤となる諸理論や諸概念について概説できる。</p> <p>3) 倫理綱領の理解を深め、その意義、活用の在り方について考えを述べるができる。</p> <p>4) 看護が直面する倫理的問題の概要と倫理的意思決定のためのアプローチの方法論について説明できる。</p> <p>5) 上記の学びを活用し、臨床で遭遇する倫理的問題・課題やジレンマ（事例）について討議することができる。</p> <p>6) 臨床看護研究活動における研究倫理（倫理的配慮）の必要性和研究者の基本的責務について説明できる。</p> <p>7) 看護者が看護実践上の倫理的問題・課題の明確化、調整・解決への対処能力を培うことの意味、重要性を再考し、看護実践において倫理的責任を果たすための自己の課題を考察し発言することができる。</p>						
時間外学習に 必要な 内容・時間	<p>① 配布資料や指定の参考書は、事前に通読して授業に臨むこと（各 60 分）</p> <p>② 事例検討は、それまでの授業をもとに、自らの文献検討も含めて資料を作成しプレゼンテーションの準備をする。 (各 60 分)</p> <p>※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（2単位15回科目の場合：予習+復習4時間/1回）（1単位15回科目の場合：予習+復習1時間/1回）（1単位8回科目の場合：予習+復習4時間/1回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。</p>						
授業計画	<p>第1～5回</p> <p>第6～8回</p> <p>第9～12回</p> <p>第13回</p> <p>第14～15回</p>	<p>倫理とは 医療倫理・看護倫理の歴史の変遷</p> <p>看護倫理の基盤となる理論とその特徴：義務論、目的論、功利主義、徳の倫理など 看護実践における倫理的概念の検討（サラ・T）：アドボカシー、責任/責務、協働、ケア アライング 看護者の倫理綱領(行動指針)とその意義</p> <p>現代医療における倫理的課題 看護が直面する倫理的問題と事例分析の方法論：原則論・手順論、物語論 サラ・T トンプソン、ジョンセン等の理論・方法論の特徴を理解し、活用する 看護実践上の倫理的意思決定へのアプローチ：事例検討・発表 さまざまな事例分析の方法論の活用し、検討する</p> <p>倫理コンサルテーション：臨床で遭遇する倫理的問題・課題やジレンマなど、倫理的諸 問題に対する関係者間での高度実践看護師としての倫理調整 看護現場の身近な事例をもとに、倫理的課題の解決に向けて検討する 臨床看護研究の実践における倫理的配慮 研究対象者の権利・安全の確保、インフォ ームドコンセントを「臨床研究における倫理的指針」「看護研究のための倫理のガイドラ イン」(ICN)等に基づき理解する さまざまな研究分野における倫理的配慮の特徴 課題発表とまとめ:看護実践において倫理的責任を果たすための自己の課題</p>					<p>全て 二村 三好</p>
評価方法 評価基準	プレゼンテーション、レポート、授業参加態度などを合わせて総合的に評価する。						
教科書	適宜、資料を 配布する。	参考書等	<p>サラ T・フライ, 片田範子他訳：看護実践の倫理, 第 3 版, 日本看護協会出版会, 2010.</p> <p>ジョイス・E. トンプソン他, ケイコイマイ・キン他訳：看護倫理のための意思決定 10 の ステップ, 日本看護協会出版会, 2010.</p> <p>宮坂道夫：医療倫理学の方法, 第 3 版, 医学書院, 2016.</p> <p>石垣靖子他：臨床倫理ベーシックレッスンー身近な事例から倫理的問題を学ぶ, 日本 看護協会出版会, 2012.</p> <p>鶴若麻理, 麻原きよみ, ナラティブでみる看護倫理, 南江堂, 2013.</p> <p>宮脇美保子：看護実践のための倫理と責任ー事例検討から学ぶ, 中央法規出版, 2014.</p>				